

スノーサイクリングで冬を楽しむ

3月12日(土)に、占冠村サイクルツーリズム推進実行委員会の主催で、占冠村ガイドツーリング極寒スノーサイクリング in 双珠別が行われました。

村内外から13人が参加し、双珠別ダムへ向かう林道往復約20kmを走り抜け、凍った滝などの絶景や斜面を下るダウンヒルなど、冬にしか体感できないサイクリングとなりました。

村外の参加者からは「占冠村は通過点でしかなかったけど、また遊びに来たい」といった感想があり、占冠村の自然を満喫してもらえたようです。



練習の成果を出し切って

3月2日(水)に、占冠中央小学校でスキー記録会が実施されました。

新型コロナウイルス感染拡大のため、村民スキー大会が中止となりましたが、これまで練習した成果を発揮する場として、スポーツ推進委員や学校支援ボランティアなどの協力で実施されました。

子どもたちは授業などで練習を積み重ね、昨年よりも技術を磨き、1年生も最後まで力強い滑りを見せ、応援に駆けつけた保護者の見守る中で、一生懸命に練習の成果を発揮することができました。



世話焼き隊へ日頃の感謝を

3月4日(金)に、学校支援ボランティア「世話焼き隊」のお宅を訪問し、日頃の感謝を伝える記念品を贈りました。

「世話焼き隊」のみなさんは、子どもの見守りや学校での授業のお手伝いに協力いただいています。

記念品を差し出されると「なんも、大したことないのに」と謙遜していましたが、学校支援ボランティアは、子どもたちや学校と地域とのかけ橋となる貴重な取り組みとなっています。これからも地域全体で子どもの成長を見守っていきましょう。

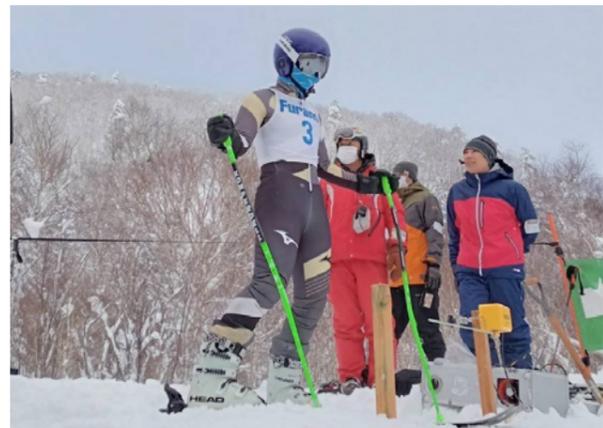


おひなさまの衣装でパチリ

3月3日(木)に、占冠保育所とトママ保育所でひなまつりが行われました。新型コロナウイルス感染拡大により規模を縮小し、保護者の参加は見合わせて実施されました。

子どもたちは、飾られているおひなさまたちと同じように衣装を着て記念撮影をしました。頭に載せた冠やかんざしの飾りのバランスを取るのが大変な様子が表情にでています。

まだまだ寒い占冠ですが、春を迎えるおひなさまとともに子どもたちの健やかな成長を願いました。



熊崎莉子さん全国大会出場

熊崎莉子さん(占冠スキー少年団・占冠中学校1年生)が、昨年に引き続きジュニアオリンピックカップ2022全日本ジュニアスキー選手権大会の出場権を勝ち取りました。

3月26日(土)から29日(火)に、長野県菅平高原パインピークオオマツスキー場で行われる大会で、大回転競技と回転競技に出場します。また、2つの競技の上位32人は、2人の選手が並列したコースを同時に滑走して勝敗を決める平行大回転競技に参加することができます。

牛乳の消費にご協力を

3月22日(火)に、占冠村酪農振興会(安田大吾会長)様より牛乳の消費拡大へつながらる商品券が寄贈されました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により飲食店などで牛乳の消費が減少していることを受け、村内の酪農家を代表して牛乳の消費を呼びかける要望がありました。

寄贈された商品券は、村民の牛乳消費拡大を推進するため、村内学校の児童生徒や福祉施設などに配布されます。

トペニワッカが振興賞を受賞

占冠村の特産品でもあるメープルシロップ「トペニワッカ」が旭川しんきん産業振興奨励賞を受賞し、3月16日(水)に旭川信用金庫本店で表彰式が行われました。

同賞は旭川・富良野近郊で事業を営む個人・企業を対象として新技術・商品等の開発および改善、改良などにより、顕著な貢献が認められる事業を表彰するものです。表彰式には、占冠村木質バイオマス生産組合の高橋代表理事、長瀬理事が出席し、全国的にも珍しい取り組みについて報告を行いました。

70年の想いを受け繋いで

3月17日(木)に、株式会社川端組(嶋崎武代表取締役)様より占冠村の子育て支援のために金300万円のご寄附をいただきました。

株式会社川端組は創立から70周年を迎えられ、村民の生活インフラを支える会社のひとつとなっています。嶋崎代表取締役は「当初は石綿採掘から始まり、先代から受け繋いで3代目となる。色々あったが一生懸命繋いできた。」と感慨深く想いを話していました。

多額のご寄附は子育て支援の施策に有効適切に活用させていただきます。